

1. 科目名 (単位数)	比較教育文化演習 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5365 EDMP5318
2. 授業担当教員	【池袋】 大島 聡、片岡 浩 【名古屋】 金 龍哲、片岡 浩			
4. 授業形態	講義と演習 (ディスカッション。グループ学習等)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし。			
7. 講義概要	グローバル化が進む現代、文化的背景の異なる人々と良好な関係を築くためには、互いの文化と出会いを知ることは重要な意味を持つ。本講義では、わが国や諸外国における芸術教育 (音楽、美術、言語) の文化比較を通して、異文化理解や多文化共生についての学びを深めていく。今回、芸術に特化して論じるのは、芸術は創造的であり、民族の境界を越えて人々に訴え、社会を活性化させていく力があると考えからである。実際の授業では、諸外国と我が国の音楽フェスティバルや教育、言葉や五感による表現の体験とコミュニケーション、という観点から考察していく。			
8. 学習目標	1. 我が国及び諸外国の芸術教育の比較・検討を通して、異文化理解や多文化共生の意味について考察する。 2. 言語・五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学び、認識 (記号的認識、感覚的認識) の意味について考察する。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業の事前、事後に配布される論文や書籍を購読し、内容の説明ができるようにしておく。 その他、授業ごとに指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 なし。必要な資料は配布する。 【参考文献】 ・ 下出美智子『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』風間書房, 2016 ・ 若林忠弘『世界の民族音楽』東京堂出版, 2003 ・ 村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』KK ベストセラーズ, 1990 ・ 臨床美術プログラム			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・ 我が国及び諸外国の芸術教育の比較を通して、異文化理解や多文化共生の意味を探ることができる。 ・ 言語や五感による表現とコミュニケーションの体験を通して、記号的認識と感覚的認識の意味について理解することができる。 ・ これまでの学習を通して理解したことや発見したことをまとめ、レポート発表することができる。 ○評定の方法 日常の授業態度 10%、取り組み (自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 20%、出席状況 20%、レポート & 課題 50%として、総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	教師、研究者としての資質・能力の向上に努めてほしい。 研究論文作成に向けて進んで文献・資料の収集や調査を行う等、試行錯誤しながら学びを深めてほしい。			
13. オフィスアワー	事前にメール等でアポイントをとって下さい。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オリエンテーション (授業の進め方、評価について)。比較教育文化論について			
【学習の目標】	日本人の音の聞き方・捉え方や、科学的・芸術的認識をテーマとした学習を通して、比較教育文化論についての理解を深めていく。			
【学習の内容】	DVD《日本の音風景》の視聴と「音」の聞き方・捉え方。科学・芸術表現における認識。			
【キーワード】	音、芸術表現、異文化、比較			
【学習の課題】	学生間で「音」の捉え方や科学・芸術表現の認識について考え討論できる。			
【参考文献】	DVD《日本の音風景》			
【学習する上での留意点】	要点を整理して自分の考えが発表できるようにすること。			
2～4. テーマ	「教育文化」とは何か―比較的視点から諸外国の教育の個性を支える文化を探る			
【学習の目標】	諸外国の教育の仕組みや制度の背景にある文化 (歴史や価値観、慣習、環境、儀礼と行事、民族的特性など) について学び、多角的視点から教育についての理解を深める。			
【学習の内容】	学歴観、非制度的教育現象 (学校掃除、通信簿、成年儀礼…)、教育における諸民族の振る舞いと個性			
【キーワード】	文化、教育文化、比較教育学的アプローチ			
【学習の課題】	諸外国における教育的特性を成す事例について調べ、討論を通して自らの考え方を形作る。			
【参考文献】	『世界の学校』『東方女人国の教育』			
【学習する上での留意点】	多角的視点から世界の教育現象をとらえ、自らの見解を形作ること。			
5～6. テーマ	文化多様性はなぜ必要か―そのロジックと展開			
【学習の目標】	グローバル化社会における文化多様性の意義、その展開と現状、文化多様性の保全に寄与する学校教育の在り方について理解を深める。			
【学習の内容】	「文化多様性宣言」、文化多様性の論理と実践、文化多様性をめぐる諸施策			
【キーワード】	文化多様性、SDGs、危機言語、マイノリティの文化、地域・民族文化の教育課程化			
【学習の課題】	日本と中国における文化多様性のロジックと実践に関する文献検索、ディスカッション			
【参考文献】	『創造的破壊』『近代とはいかなる時代か』			
【学習する上での留意点】	思想としての文化多様性の意義と文化多様性の保全に寄与する学校教育の在り方を、現場の実践を踏まえて理解すること			
7～8. テーマ	学校において伝統文化は如何に扱われているか―日本と中国における「地域」の位置づけに関する比較考察			

	<p>【学習の目標】日本と中国の学校における伝統文化教育の在り方について、「地域」の扱い方に焦点を当て、教育を支える基本的な価値観、時代的背景や慣習等が及ぼす影響を理解する。</p> <p>【学習の内容】両国における伝統文化教育の実践、動向とその特徴</p> <p>【キーワード】伝統文化、カリキュラム・マネジメント、地域</p> <p>【学習の課題】伝統・文化・教育の概念整理、具体的事例の分析、プレゼンテーション</p> <p>【参考文献】『『伝統文化』の教育課程化の論理と課題』</p> <p>【学習する上での留意点】学校の文化伝承装置としての機能とその限界を理解しつつ、今日の文化多様性の課題を整理すること</p>
9～11. テーマ	表現とコミュニケーション1
	<p>【学習の目標】五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学ぶ。 言葉による表現、「記号的認識」と「感覚的認識」の意味合いを探る。</p> <p>【学習の内容】五感によるモチーフ認識を通して、「記号的認識」と「感覚的認識」の意味合いを体験的に探る。</p> <p>【キーワード】五感による表現、コミュニケーション、感性、芸術、文化、創造</p> <p>【学習の課題】講義内容を整理し、レポートとしてまとめ発表できる。</p> <p>【参考文献】臨床美術プログラム（資料配布）</p> <p>【学習する上での留意点】事前に参考文献を熟読しておくこと。</p>
12～14. テーマ	表現とコミュニケーション2
	<p>【学習の目標】五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学ぶ。 見えないもの（感性・感覚）を見えるもの（カタチ・色・動作）で表現する。また、第三者から発信されたその情報を読み取る。</p> <p>【学習の内容】音（音楽）を色とカタチで表現することを試みる。</p> <p>【キーワード】五感による表現、コミュニケーション、音楽・美術、芸術、文化、創造</p> <p>【学習の課題】プレゼンテーション・コミュニケーション学習。学んだことを整理し自分の考えを発表する。</p> <p>【参考文献】臨床美術プログラム（資料配布）</p> <p>【学習する上での留意点】事前に、今まで学んだ文献の要点を整理し、自分の考えを発表できるように準備しておくこと。</p>
15. テーマ	これまでのまとめ
	<p>【学習の目標】芸術による表現や表現とコミュニケーションについて、これまでのまとめを行い発表する。</p> <p>【学習の内容】これまでの授業を通して分かったこと、発見したことをまとめレポート発表する。</p> <p>【キーワード】五感による表現、プレゼンテーション、コミュニケーション、音楽・美術、芸術、文化、創造</p> <p>【学習の課題】本講義の成果を発表する。</p> <p>【参考文献】これまでの資料</p> <p>【学習する上での留意点】事前にレポートを作成し、指定された時間内に研究成果を報告する。</p>